

其の努力見るべきものありとして特に賞牌を授與することとした

## 辯士派遣

二月十四日彦根商業學校主催の辯論大會に山本捨三を派遣した

十月九日彦根商業學校完成祝賀辯論大會に内藤信夫を派遣した

十月十五日彦根高等商業學校開校祝賀近府縣中等學校辯論大會に松宮誠一を派遣した

十月二十日八幡商業學校近府縣中等學校雄辯大會に吉田諦成を派遣した

## 舊師よりの禮狀

本校御在職中本部展覽會の爲に毎年格別の御盡力を蒙つた杉江先生丹羽先生に本年調製のメダルを贈呈しました處兩先生より鄭重なる御禮狀を戴いた



## 劍道部々報

## 洛陽武德殿出場之記

金龜城の若葉漸く繁り、夏正に深きに入らんとす。

我等青春の熱血に燃ゆる青年の大的に雄飛すべき時に非すや。大正十四年七月二十五日より三日間京都武德殿に於て開催さる、第二十六回全國青年大演武大會に我が彦中劍道部は必勝の意氣を以て参加せり。

おゝ省りみれば血を吐くが如き長日の猛練習よ!!

互に慰め且勵げまし、我等が積みし猛練習に鍛ねし

手腕を發揮すべき時は來ぬ。二十四日出發に際し、熱誠なる御後援を給ひ且強雨を冒して彦根驛頭まで見送り下されし六百名の應援團健兒諸君に報ふ可きものは只必勝の二字!!。歸らじとかねて思へば梓弓、引きて歸らぬ覺悟もて、駒を洛陽に進む十一名の若殿原。嗚呼心地よや敵來れ。嗚呼心地よく戦はん。敵は幾萬ありとも戰の庭の花吹雪、散らさで敵を返すべき。

午前七時四十一分彦根驛發汽車は只更南へ南へと。

東138(本校) ○ 植原春三  
廣島商業 堀川三市

本校榊原一擊の元に面を取つて勝つ。

西125(本校) ○ 岡崎諦三  
岡山津山中學 室賀達龜

奮然として岡崎胴を取りつて勝つ。

東169(本校) ○ 竹中正彦  
金澤二中 山本捨三

續いて山本激戦を取りつて勝つ。

西157(本校) ○ 小野與惣次  
和歌山粉河中學 上西 繁次

小野優勢なりしが惜しくも敗る。

東180(本校) ○ 宮田徳太郎  
鳥取商業 矢島儀男

宮田奮ひて戦ひしも惜しくも敗る。

東19(岐阜商業) ○ 高木幹  
本校 内藤信夫

内藤勇敢に奮闘せしも惜しき所にて敗る。

期くて終りしも來年度は本年度以上の成績を以て奮闘せん事を期す。終りに臨んで、應援團諸君の熱誠なる

御後援を厚く感謝して止ます。

一四、九、一八 (松宮記)

## 縣下武道大會出場之記

金龜城の綠葉錦化し、天高く馬肥ゆるの時我が剣道部は八日市中學に於て開かる第十回縣下武道大會に參加せり。時は是れ大正十四年十月四日。因に奮闘せし選手の戰績を左に掲げん。

## 第一回戦

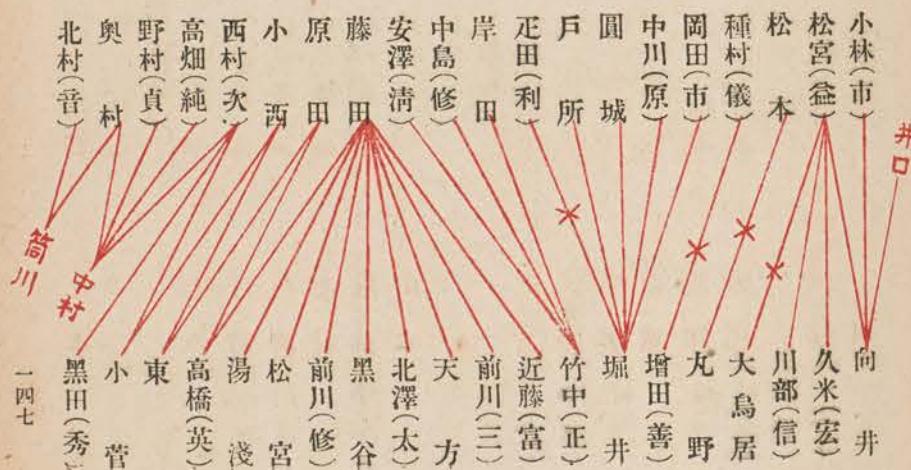
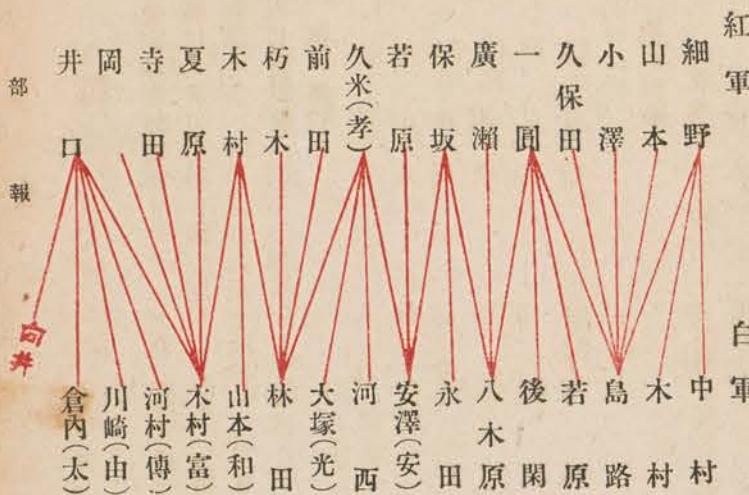
彦山小野川喜多木川井古藤今川保井中

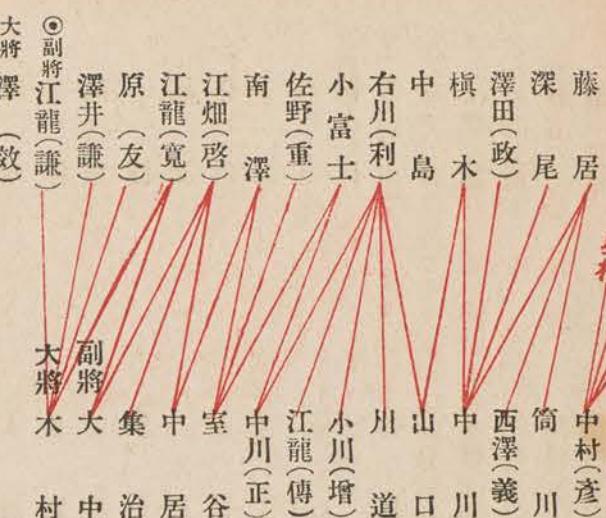
彦山小野川喜多木川井古藤今川保井中

彦山小野川喜多木川井古藤今川保井中

彦山小野川喜多木川井古藤今川保井中

終に諸君の熱誠なる御後援を厚く感謝す。  
一四、一一、一（松宮記）

行幸記念武道大會之記  
一二三級紅白試合

奥野高西  
村村村村

白軍大將の奮戦空しく敵將を残して敗る

大將澤(效)

(◎副將江龍(謙))

紅軍

四五年級紅白試合

白軍



木下

本日の對校試合のメンバー及び結果  
第二等賞 第三等賞

北村吉

河村孝三藏

北村(登)

北村(光)

木村(謙)

他校選手一本抜

第一等 佐久間

第二等 山本

(桃井先生)

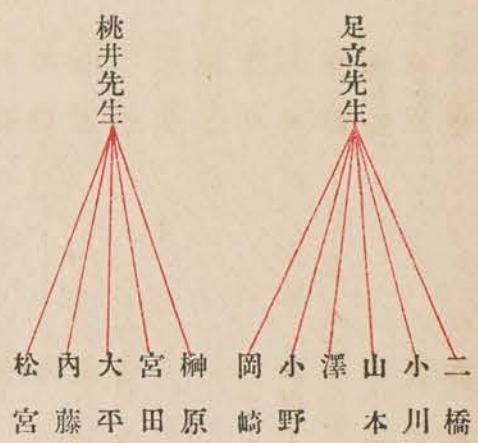
(倉橋先生)

今回は先生の出演せられし者數名又大いに選手を奮まされたり。

受賞者左の如し

第一等賞

藤田新次郎



## 柔道部々報

大日本武德會第二十六回青年演武會出演記  
大正十四年七月二十八日於武德殿

○(本校) 富田林中  
 ○(本校) 高鍋中學校  
 長奥居  
 友俊一郎  
 明郎

板持正  
 吉吉

○(本校) 鎮西中學校  
 ○(本校) 海南中學校  
 ○(本校) 長府中學校  
 ○(本校) 廣島一中  
 ○(鳥取一中) 烏取一中  
 西村榮次郎  
 田村隆則  
 田中三郎  
 楠見義治  
 長谷川銳吉  
 藤田義人  
 宮村又七  
 米重孝吉  
 高野瀬陳吉  
 植田國男

今回は初舞臺の士多く不馴な勝負であつた。

第二回近府縣中等學校柔道大會參加記  
十一月廿九日於彦根高等商業學校

第一回戦 不戰一勝  
第二回戦

○(本校) 長谷川  
 奥居  
 西村  
 田中  
 高野瀬  
 上田  
 三木  
 吉川(文)  
 長谷川  
 上田(喜)  
 前川  
 上田(元)  
 中村(利)  
 久保田  
 西川(源)  
 川村(三)  
 北川(彦)  
 清水(定)  
 内片  
 多賀  
 河合  
 力石  
 野村(眞)  
 目加田(健)  
 西村(敏)  
 田中(秀)  
 尾本  
 氏原

○(立命館中學) 家村  
 中野  
 島川  
 田中  
 松尾  
 上尾  
 沢米  
 中澤  
 久松

殆んど新チームにて。よく奮闘し、無慚にも敗る。  
大正十四年十一月十三日  
行幸啓記念武道大會柔道年級紅白  
試合の記

乱取之形 取方 本多先生  
 受方 紺田先生

一、二、三年紅白勝負

紅軍 白軍

高田 附北川(并) 中野川島東林 池田(文) 横田居組平川近藤  
 和圓田城上野田中(新) 夏原渡邊(正) 夏原宮崎西川(伊) 上林岡村夏川  
 仁田 附北川(并) 中野川島東林 池田(文) 横田居組平川近藤  
 仁田 附北川(并) 中野川島東林 池田(文) 横田居組平川近藤

大森 澄  
 上田(喜) 前川  
 上田(元) 中村(利)  
 久保田 西川(英)  
 西川(源) 川村(三)  
 北川(彦) 清水(定)  
 内片  
 多賀  
 河合  
 力石  
 野村(眞)  
 目加田(健)  
 西村(敏)  
 田中(秀)  
 尾本  
 氏原



○○(彦工業) 清水 四男  
○○(彦商業) 西山佐一郎

一二三年級紅白勝負日日自軍之勝  
四五五年級紅白勝負日日自軍之勝

## 受賞者

第一等六人拔 二年 小林  
第二等四人拔 五年 川崎  
第三等三人拔 一年 平川  
四年 奥村

三年 毛利  
二年 吉川(長彦)

一年 橫田  
西川(源)

第一回 普通レース  
第二回 普通レース  
第三回 普通レース

舵手 森 藤次 四番 原田 富藏  
整調 本多 一男 三番 西川 佐平  
五番 大竹 徹次 二番 田部 文平  
艇舳 北川宗太郎

例年の如く本校創立記念日水上運動大會は五月一日長曾根波止場に於て舉行せられることなり午前十時第一選手の獨漕が行はれた。

## 番外第一選手獨漕 四分十一秒

赤 青 白  
大谷組 三浦組 西居組  
大谷組 三浦組 西居組  
家森組 一三  
四分五十四秒

赤 青 白  
貴族員 一  
模範 一  
ピッグ 二

第九回 クラブレース  
赤 模範 一  
白 ピッグ 二

ピッグ最初優勢なりしも途中操舵を誤り赤のコースに入つてタッチしゴールに入ること第一なりしもオミツトせらる

## 第十回 特選レース

赤 青 白  
大谷組 二橋組 吉村組  
大谷組 二橋組 吉村組  
名譽レース 二

赤 青 白  
田中(孝)組 二  
吉田組 三  
四分五十五秒

赤 青 白  
田中孝組 二  
吉村組 三  
四分三十五秒

第七回 クラブレース  
赤 白  
北村組 二  
藤本組 二

青 青 白  
田中孝組 一  
吉村組 二  
四分四十一秒

赤 白  
北村組 二  
藤本組 二  
伊藤組 二

青 青 白  
田中孝組 一  
吉村組 二  
四分五十八秒

赤 白  
普通レース  
北村組 二  
普通レース

青 青 白  
田中孝組 一  
吉村組 二  
四分三十五秒

前川、谷川、戸所、井口、中川、清水、西川源

安部、尾本、吉川、田部、安居、長野、西川

岸田、野村、中島、宇野、大竹、山口、澤田

第十八回 來賓レース 一 タイム不明

赤 西小學校

一

青 東小學校

二

第十三回 來賓レース

赤 高商組(武井組)

一 五分六秒

第十四回 他校選手レース

白 高商組

二

赤 京二中

一 四分五十八秒

白 八商

二

第十五回 來賓レース

赤 卒業生

一 五分三十三秒

白 高商

二

第十六回 來賓レース

赤 宇治電

一 五分四十二秒

白 高商一年級

二

第十七回 來賓レース

赤 高商(A)

一 五分四十八秒

白 高商(B)

二

此の回頃に至り風益々強く競漕困難となりたれども残り少く遂に續行する事とせり。

第十七回 來賓レース

赤 高商(A)

一 五分四十八秒

白 高商(B)

二

堂島川出漕之記

我が部に於ては本年笠原主將以下三名の戰友を失ひ新

主將森船手の元に三月より練習を開始せり然して其の鐵腕を試すべく五月十日大阪堂島川にて開かれし關西漕艇俱樂部主催大阪毎日新聞社後援第四回端艇競漕大會に出漕せり。

五月九日四時間の授業終るや應援團幹部諸兄の見送りを後にして必勝を期し戰地に乘込み。午後二時半會場におもむき大阪高工、高校の兩艇をかり受け練習せり。明けて十日天氣晴朗全くのボート日和なり。

此の日たるや丁度銀婚式當日とて觀衆兩岸を十重二十重とかこみもの凄きばかりなり。斯くて第一豫選は南海の雄和歌山商業なり。第七回九時二十分我等の戦ふべき時は來りぬ。我等用意して敵を待てども敵來らず遂に敵は棄權せりこの報あり。我等は初陣に敵を破りて日頃の腕前を示さんと思ひをりしも詮方なく獨漕する事となれり。號砲一發スタートを切り力漕に力漕を加へてゴールに入る。

白 彦根中學 一

赤 和歌山商業 棄權

午後三時第二豫選は開かれぬ敵は昨年優勝校怨敵大津商業A及び江國否全國の弱者滋賀師範奉公團Bなり。

三艇等しくスタートに着き出發命令を待つ俄然一發火蓋は切られぬ敵の二艇はさるもの滑り出しよく私は初陣の身の悲しさ如何せんオール乱れて赤青に後れること二艇身然れども我奮然として後を追へり。大江橋下にて赤青に接近し愈々力漕し之を抜かんとするが最も最早や力盡きオール乱調となり二艇に及ばざる事二艇身かくしてラストに入りラストヘビーを絶叫し追はんとするが及ばず號砲一發遂に赤ゴールに入り我遅るゝ事四艇身涙を飲んで降る。初陣とは言へ何たる慘敗ぞ我等は三度大商に敗れ榮ある彦根中學の歴史を汚せり先輩諸兄並びに校友會諸兄の御寛恕を乞ふ。尙當日來阪應援せられし林、岩崎二君に感謝す。

赤 奉公團(B) 一コース 一着

青 大津商業(A) 三コース 二着

白 彦根中學 二コース 三着

因に本校出漕選手左の如し

舵手 森 藤次

整調 本多 一男

五番 大竹 徹治

四番 原田 富藏

三番 西川 佐平  
二番 田 部 文平  
艇舡 北川 宗太郎  
補欠 上 田 善雄

## K H記

## 彦根高商水上大會出漕之記

我が部第一第二選手は五月二十四日大洞内湖に於て催されし彦根高商第一回水上大會に參加せり。五月廿四日十二時半我が第二選手は八幡商業第一選手と戰ふ事となれり第二は練習日尙淺く初陣なれども赤鬼健兒の意氣を示さんと美事なるサリエートを終へてスタートに着けり戦は開かれぬ我が選手は体格に劣るところありと雖も意氣以て勝たんものミッドルに至る迄肉迫に肉迫をつゞけたり。されど悲しい哉五艇身の差を以て敵に名を成さしむ

赤 彦根中學(第二)

白 八幡商業(第一) 一着 三分四十四秒

午後二時我が第一選手は弟の仇たる八商の第二と戰ふ事となれり。何の恐るる事やあらん我が腕を示さんも

赤 彦根中學(第一) 一着 三分四十八秒  
白 八幡商業(第二)  
午後六時決勝レースは淡やみの中にて本校、長濱農學八幡商業の三校の間に行はる。三艇等しく滑り出づ。敵体の大なるを利用しビッチを上げて我に先んする事半艇身ミッドルにて我彼等に迫り一進一退三艇全力を出して白熱戰を演すラスト前又もや我彼等におくるラストに入り益々力漕して肉迫すれば及ばず半艇身の差を以て八商、長農、本校の順にてゴールに入り我復破れたり何たる不面目ぞ當地而も六百の應援團員の前に再び慘敗したるは何たる恨事ぞ校友諸兄の御宥恕を乞ふ。

赤 長濱農學 二着

青 八幡商業(第一) 一着 三分五十八秒

白 彦根中學(第一) 三着

## 因に本校出漕者は左の如し

## 第一選手

舵手 森 藤次	舵手 安澤松兵衛
整調 本多 一男	整調 北川四良七
五番 大竹 徹治	五番 江畑 助男
四番 原田 富藏	四番 木村 六郎
三番 西川 佐平	三番 杉本 直三
二番 田部 文平	二番 北村 眞一
艇舡 北川宗太郎	艇舡 上田 善雄

## (第一選手整調記)

最後の大會即ち石塲の大會には種々の事情ありて第一選手は棄權せり。

## 大津石塲濱出演之記

彦根高商の大會に於て一撃の下に破られし我等は來るべき八月の大會には是非とも此の敗辱の汚名を雪かんものと琵琶湖上に於て猛練習を開始せり。七月廿六日至り四番上田君出場不能となり止むを得ず北村君を迎へて最後の練習に餘念なかりき。廿八日我等は池田部長に引率せられて大津遠征の途につきぬ。午後四

時無事大津に到着し直に旅館佃亭に入る。翌日艇俱樂部の編成せられし練習艇貸付時間割に従つて練習せり。一日午後大津公會堂に於て出場選手の懇親會あり。一同列席す。田島博士、末松知事及び委員の注意訓話ありて後番組の抽籤行はる。満場の壯觀我敵は何處にありやと睥睨す。その結果

## 第九回

彦根中學第二選手 一コース 青

米子中學第二選手 二コース 赤

かくて第一回戦は連年當大會の優勝校たりし米中の第二なり。敵大なりとも恐れず。敵小なりとも悔らず。勇を鼓して戦はん哉。其夜一同作戦に努む、明くれば二日待ちに待ちし奮闘の日は來りぬ。東天漸く白む頃既に起き齋戒沐浴前の縣社天孫神社に詣づ。午前八時會場にて行はれし入場式に参列す。昨年度の優勝校たる米子中學及び高知師範より優勝旗返還せらる。而して後大盛況裡に第廿三回全國中等學校端艇競漕大會の幕は切つて落されぬ。第一回第二回と過ぎ最早第九回は切つて落されぬ。第一回第二回と過ぎ最早第九回我等の雌雄を決する時とはなりぬ七勇士悠久として乗艇せり。二艇見事なるサリエートを終へ萬雷轟くが如き拍手を後にしてスタートに向へり。海に陸に旗幟翻

々として風に瀧き、彦中頑張れ！の叫びは我等をして一層興奮の度を高からしむ。我是一コース、彼は二コース各々定ボジョンに付くと見るや號砲一發白沫飛び散りて兩艇に出づ。共に物凄きスタートへービーを以て力漕し、舷々相摩し火花を散らす、ミッドルに至り、赤稍青に先んず。我急調を以てすれば彼亦急調を以てし遂に七百のボールは來りぬ抜くべき時は今なりと思ふや否や「此處三本」と叫べば艇足頓に速り赤と雁行し再び猛烈なる白熱戦を演じつゝラストに入りぬ。

此處に於て最後の猛漕を續けしも如何せん。號砲一發赤遂にゴールに入りぬ。我おくるゝ事一艇身。噫。校友諸兄の御宥恕を乞ふ。因に當日のメンバー左の如し。  
舵手、安澤松兵衛、整調北川四郎七、五番江畑助雄、四番北村彌一郎、三番杉本直三、二番池田克平、一番大竹徹治  
(安澤記)

## 野 球 部

◎ 大正十四年度野球部部報

部長	桃井先生
理事	藤村宗三郎 西居義雄
	柏淵與惣次郎 須山清太郎
平野等	竹中正
赤田隆一	

選手(五年)	辻孫四郎 藤本元薄
(四年)	奥村文吾 藤村清一郎
伊藤賢藏 青山正之進	
(三年)	堀江耕次 古澤進
藤村由次郎 室谷高正	筒川俊夫 辻村軍左右
(二年)	前川修 古澤進
那須岳 西堀新次	
赤田隆一	室谷高正 竹中正

今年のチームは村岸主將を送り出したのみで前年と何等變りなく此年こそ年來の希望通り京津の覇者として

甲子園へ乗り出せるであらうと先輩其他一般から信じられ僕等も優勝を頭に置いて辻主將の下に猛練習を續けた。

### 縣下中等學校野球大會參加記

・三月下旬に開かれた縣中等野球大會第一回戦對八日

市中學 球審 山下氏 壘審 八木氏

我校先攻に開戦

球審三濱壇審辻 本校先攻

第五回 表 我一點を増し元氣満々たり 裏 中西二  
捕後松澤四球を得たが岡田の遊捕に封殺されて小菅三  
振に終る (彦一、八零)

時丁度六時コールド、ゲームを宣せられ新進八中健兒の奪闘を拉いで大勝す

第二回戦 本校對滋賀師範

第一回 表 奥村中飛堀江二捕失に出て二盜捕手の牽制悪球と中堅手の三壘悪球に一氣生還浅野三振藤本四球に出で二盜して捕手の牽制球の二壘失に三壘に據つたが辻の左飛に止む 裏 益野の四球ありしが無爲 (彦中一滋師零)

第二回 表 伊藤の剪頭中前安打。古澤の右前安打藤村の中直安打して伊藤古澤生還。青山の遊捕に藤村重殺さる。奥村遊捕一失に出で續いて堀江の左前安打に二進し淺野の中右間大三壘打に二者生還。藤本四球に出で二盜の後辻の左越打に三者生還し伊藤遊捕に出でたが古澤の三振に止む。裏 成宮の右中間二壘打ありしが他者凡打 (彦中七滋師零)

第三回 表 藤村投捕後青山の四球奥村の左越二壘打

第四回 表 又二點を加ふ 裏 安打四球各一あつたが無爲 (彦二、八零)

に走者二三壘に據つたが堀江淺野共に遊飼して機を逸す 裏 福井四球後村木及び澤部共に二壘打して一點を得たり (彦中零滋師一)

第四回 表 藤本中右間二壘打に出で後辻遊飼失に出て伊藤遊飼の後古澤の遊飼失に藤本生還藤村三振青山遊飛に止む 裏 三者凡退 (彦中二滋師零)

第五回 表 藤本の中前安打あるのみ 裏 (此回より淺野第二投手正投手と替る) 成宮四球に出で駒井の一飼後福井右前安打し村木の遊飼失に成宮福井生還益野の中越二壘打に村木生還。澤邊の二壘打に益野生還後中川の中越本壘打に澤邊中川も生還 (又正投手をブレートに立つ) 鹽見四球に出でしが橋本成宮二者三振に空し。此の回敵の打撃一巡し六點を盛返へす (彦中零滋師六)

第六回 表 辻四球に出で伊藤の右飛に一、二壘に挾殺され古澤二飼失後藤村中前安打せしが青山の遊飛に終る。裏 二者三振後村木左前安打に出でしが益野三振 (兩軍零)

第七回 表 奥村左前安打堀江の三飼失に走者一、二壘にありしが後援空し 裏 澤邊中飛二者三振 (兩軍零)

零)

第八回 兩軍無爲

第九回 表 藤村青山共に三振後奥村右中間二壘打出でしが堀江の投飼に止む。裏 福井三振後村木三振不死に出でしも益野三振澤邊中飛して萬事窮し我に降る。メンバーリーの如し

滋師		木野邊川見本宮井井
中		奥堀淺藤辻藤澤村山
彦	中	三中遊投捕右左一二
中	二	三投遊捕一右左
彦	三	投捕右左一二

滋師	31	7	7	15	6	1	0	9	3	0
中	打數	點	打	振	球	打	壘	策	打	打
彦	43	10	11	6	4	0	6	2	3	1
中	投	三	投	三	投	遊	捕	一	右	左
彦	二	投	三	投	遊	捕	一	右	左	一

○優勝戦

二十九日午後一時半から滋賀師グランドにて折から

飛後ロング、ヒッター辻四球に送られ後重盜成つたが藤本一邪飛に止む 裏 三者三振 (兩軍零)

第五回 兩軍無爲

第六回 表 二死後澤邊二遊間二壘打に出で捕逸に三進辻の三飼一壘失に生き其隙に澤野生還し藤本遊飛す 裏 不振 (彦一膳零)

第七回 表 藤村の一・二間安打あるのみ他者凡打 裏

一死後西田伸四球を利して出で奥村悦の三遊間安打に進み吉井の三振後西田善中堅越の三壘打を放ち奥

田悦を還し西田又捕逸に生還し同點になる觀衆熱狂し兩軍殺氣だつ。小幡右飛失に生き二盜後松本の左前安打に一擧生還自ら二壘に生き三盜成つた時橋本三飼を強襲其隙に松本生還したが奥村武投飼に止む

膳中ラツキーセブンの猛襲に功なりて我軍の苦戦一方ならず (彦零膳五)

第八回 表 彦中堀江四球に出で澤邊の投飼に封殺されたが自他共に許す我強打者辻猛然起つて第二球目を左翼壘越再度大本壘打を憂飛ばして堂々と二點を得たり藤本伊藤凡退 裏 三者凡打 (彦二膳零)

第九回 兩軍共に得點なく補回戦に入る

第十回 表 我二死し唯淺野の打撃に一縷の望を持ちたるが淺野第一球を左翼越大本壘打を憂飛ばして貴重な一點を得たり裏我好守して敵を封す嬉しい哉喜ばしい哉、今年度早々名譽の月桂冠を握るを得たるは。

		中		中		中	
		勝	敗	投	捕	投	捕
(先)	朝俱	彦	中	中	奥村	奥村	悦
	0	8	1	二	堀江	吉井	奥村
	0	1	1	三	浅野	善	游
	0	0	0	遊	辻	西	幡
	0	0	0	投	藤本	小	本
	0	0	0	捕	伊藤	藤	橋
	0	0	1	一	古澤	橋	本
	1	1	0	右	藤村	二	武
				左	青山	奥	川
						竹	伸
						左	西田仲

1 11A

○五月十七日 本校庭にて京都朝日俱樂部と戦ふ戦績

左の如し

開始四時

1 11A

高商	彦	中	京二中	中	彦	中
33	打數 32	33	打數 31	0	得點 5	0
2	得點 9	0	安打 4	1	安打 2	1
6	安打 10	2	三振 2	1	失策 1	1
0	二打 2	5	盗壘 4	0	盜壘 5	0
1	三打 1	3	失策 4	1	四球 4	1
0	盜壘 5	1	盗壘 4	0		
3	四球 4	0	盗壘 4	0		

2 9 A

○五月廿四日 京都に遠征して府立第二中學校と戦ふ

彦	中	京二中	中	彦	中
遊	森脇	奥村	堀江	0	0
中	辻	二投	吉谷	1	1
二	吉谷	藤本	立木	1	0
投	辻	辻	伊藤	0	7
遊	左	青山	上田	0	0
左	右	右藤村由	小城	0	0
右	三	西堀	中	1	0
三	右	一藤村清	城	0	0
右	左	捕	中	0	0
左		伊藤	内		

2 9 A

京二中	彦	中	京二中	中	彦	中
33	打數 32	33	打數 31	0	得點 5	0
2	得點 9	0	安打 4	1	安打 2	1
6	安打 10	2	三振 2	1	失策 1	1
0	二打 2	5	盗壘 4	0	盜壘 5	0
1	三打 1	3	失策 4	1	四球 4	1
0	盜壘 5	1	盗壘 4	0		
3	四球 4	0	盗壘 4	0		

2 9 A

○六月二十八日、二十九日  
名古屋方面に遠征して岐中と岐中の校庭に戦つたが  
六回に到り天氣の都合にてドロングームとなれり  
次に愛知一中と戦ふ



中 西田代山西岡村村合

水 左二遊投捕中三右

中 奥西藤藤辻伊青筒古澤

水 中二遊投三捕左右一

水 中	15	8	0	2	0	0	0	2	9
打 數	打	安	三	四	死	犠	三	二	殘
本校	30	1	7	0	2	3	1	7	1

○京津野球大會一勝者戦

本校對立命館中學 本校先攻にて(二十六日)

第一回 表 古澤中右間に一壘打せしが投手に計られ  
て死し西堀右前安打奥村又左前安打に出で一死走者  
一二壘により時機到りしが藤本、辻續いて三振して  
止む 裏 中村(謙)中村(芳)と共に三振後藤田二遊  
間安打に出で洪四球を利し走者一二壘による時竹内  
二遊間に安打して藤田生還洪其の隙に三進せんこし  
て三二壘間に挟殺さる。(彦中零、立命一)

第二回 表 藤村遊捕青山筒川の三振に止む 裏 大

塚三振、井上三飛し續く澤井三振す。(兩軍零)

第三回 表 伊藤遊捕後古澤死球を喫して出でしが奥  
村遊捕してやむ。裏 大林一鉄後中村(謙)遊捕低一  
投に生き中村(芳)中前安打に二走者を出したが藤田  
投飛落球に兩中村進壘せんとして重殺さる(兩軍零)

第四回 表 藤本三遊間に安打し辻の三鉄二失に兩者  
生き藤村のバンド内安打に無死満壘となり藤本投手  
の牽制惡投に生還す辻本盜せんとし本三間に挟殺さ  
れんとしたが野手の惡投に生還、こゝにて應援團の  
元氣幾倍か増し益々應援盛んとなる。青山三振筒川  
一飛後伊藤右翼二壘打に藤村生還古澤遊にて漸く代  
り我二點を勝ち越す 裏 洪中飛し竹中二鉄に殺さ  
る大塚左翼に三壘打を戛ツ飛したが井上三振して功  
空し(彦中三、立命零)

第五回 表 西堀遊觸安打したが奥村のバンドフライ  
に重殺され藤本右飛失に一舉二壘を得たが辻の三鉄  
に三進せんとし二三間に挟殺さる。裏 澤井三振大  
林一飛中村(謙)の三振に應援團熱狂し藤本の腕いよ  
く 冴わをあらはす(兩軍零)

第六回 表 藤村遊擊を強襲し一悪投に一舉二壘を占

據し青山筒川三振伊藤三遊間に安打し(この時立命  
投手竹内三壘に退き大林ブレーント立つ)藤村と伊  
藤重盜をばかり野手の本壘高投に藤村生還古澤三振  
裏 立命我の堅きをくぢかんとせしが先づ中村(芳)  
左飛し藤田一鉄洪中飛して意を果さず。(彦中一、  
立命零)

第七回 表 西堀遊捕奥村左翼にライナーを送つたが  
野手のために擋まれ藤本四球を利ししが離壘して刺  
さる 裏 竹内二鉄失に出て大塚の死後井上四球を  
喫して澤井の投軟儀打に走者三二によつたが竹内大  
林とのスクイズプレーを誤り三本間に挟殺さる。(兩  
軍零)

第八回 表 辻二飛藤村遊飛青山左飛にやむ應援團熱  
狂して選手をはげます。裏 大林三振中村(謙)遊越  
安打に出で三壘中村(芳)の投捕に三進せんとして  
二三間に挾殺藤田中左間に三壘打して中村(芳)生還  
洪三振したが立命一點を回復す(彦中零立命一)

第九回 表 筒川遊飛後伊藤三遊間に安打に出でしが古  
澤の中右間安打に伊藤三進を企て、挟殺さる西堀遊  
捕 裏 最後の攻撃を勢つけて打つてかゝりしが竹  
さる(兩軍零)

校	古澤	西堀	藤村	本	村	青山	筒	伊藤
立	一	二	中	投	三	遊	左	右
命	中	中	左	投	三	捕	右	一三投

○第二勝者戦

本校對京都師範

本校先攻にて(二十九日)

第一回 表 兩軍とも意氣堂々と會場に入り京師先攻  
にて火蓋を切る。先づ上田右飛し伊丹三振麝島捕飛  
して事なく止む。裏 奥村三振、西堀遊捕に刺され  
辻四球を利して出でしが盜壘をせんとして二壘に殺  
さる(兩軍零)

第二回 表 津田二捕井内投捕桑原遊捕に出でしが田

中捕飛して終る。裏 藤本四球を得て出で伊藤の犠打にて二壘に送られ藤村の三捕に三壘に入れり。次に青山の右前安打によつて藤本生還我一點を先取せしが筒川の遊捕に變る。(京師零彦中一)

第三回 表 甲盛捕飛し黒田一捕失に生き上田三遊間

安打に走者一二壘にありしが續く伊丹麻島三振 裏

古澤二捕奥村中飛西堀又中飛(兩軍零)

第四回 表 津田三振井内投捕桑原三振藤本の強腕なはつづく。裏 辻遊飛し藤本遊捕伊藤左に二壘打をカツンと飛ばしが藤村の遊飛に止む。(兩軍零)

第五回 表 田中中越の二壘に出で甲盛三捕黒田四球を得て走者一二壘にありしが上田の遊直に上田と黒田重殺さる、美技々々。裏 青山左に二壘打を飛ばし次の筒川又も左翼に二壘打を夏飛ばし青山生還、應援團狂喜。古澤二捕奥村四球西堀三捕に出でしが辻投飛藤本の三捕に終る。筒川古澤に三壘へ送られ西堀の三捕に生還。(京師零、彦中二)

第六回 表 伊丹三捕譽島三捕失に出で津田四球を利して出でしが井内桑原凡打して事なく退く。裏 伊藤

遊捕藤村中飛青山三振。(兩軍零)

第七回 表 田中右飛甲盛二捕黒田安打に出でしも上田二飛してをはる。裏 筒川二飛古澤三振奥村中右間に絶好の二壘打を爲し西堀左前安打して奥村生還辻

遊捕に出でしが西堀二壘にさゝる。我又一點を加へ喜び一層なり。(京師零彦中一)

第八回 表 三者三振藤本の剛腕敵膽を冷す。裏 藤本遊捕伊藤三振藤村二に安打せしが塗壘を企て二壘に

遊捕に出でしが西堀二壘にさゝる。我又一點を加へ殺さる。(兩軍零)

第九回 表 井内左前安打に出で桑原又中前安打して無死にて走者一二壘による次の田中カツンと又も中前安打せりと思ひの外我が中堅奥村見事に捕球し二壘に投じ辻は又一壘に好球を投げたれば案外のトリブルプレーを演せり。敵味方觀衆何れもあまりの美技に心を奪はれる時審判官はゲームセットを宣せられ京師遂に我に降れり。

校 村堀 本藤村山川澤

奥 西辻 藤伊藤青筒古

本 中二遊投捕一左右三

川三振青山遊飛して後援空し。(東山四彦中零)

第三回 表 我軍奥村中堅に藤本ブレートに立つ。東山今井投觸遊捕一落球に生き岡本遊飛後二盗西村四球

に走者一二壘によつたが奥野三振今井三盗をはかつて刺さる。裏 彦中古澤三振西堀投飛辻右中間に二

壘打をとばし、が藤本三振に止む。(兩軍零)

第四回 表 真野三壘を抜く安打に出で二盗し芝田三振後森田二遊間安打し真野の三盗に走者三一壘によつたが松本三振加藤の遊飛に退く。裏 奥村第一球を

三壘横に安打し伊藤左飛失に二者生き左の三壘投球後逸に兩者進壘し藤村の三振不死に無死満壘となり

絶好のチャансを作つたが筒川青山古澤とも東山の森田投手に軽くひねられ三振す。應援團總立ちとなり「今日桂の冠は」の應援歌を叫ぶ。(兩軍零)

第五回 表 三者凡退藤本の剛腕尚續く。裏 西堀左翼に三壘打を放ち辻の内野安打に西堀敢然本盗を企て捕手の落球に生還藤本の三振後奥村遊撃を強襲しその失に辻長驅生還し奥村二盗後奥村投手の牽制悪球に三壘を得たが伊藤三振藤村投捕に止む。(東山零彦中二)

師	田	丹	島	島	田	内	原	中	盛	田
京		上	伊	麻	津	井	桑	田	甲	黒
中	遊	三	右	捕	一	左	投	二		
京師	32	4	8	2	0	0	0			
數	打	打	振	球	打	打	策			
本校	29	2	5	3	4	1	2			
○	准優勝戰									

本校對東山中學 東山先攻にて開戦

第一回 表 東山眞野四球を利し二盗し芝田の遊撃グラウンドヒットに眞野生還芝田二盗森田三壘右を抜く

安打に三進松本三振後加藤の捕前安打に一死満壘となつたが今井の投直に芝田重殺され我軍好守して一

點に喰ひ止む應援團赤きメガホンを手に／＼懸命に叫ぶ。裏 彦中古澤遊飛西堀三振し辻四球を得たが

藤本三振して無爲(東山一彦中○)

第二回 表 東山岡本四球西村頭部に死球を喫し奥野の投軟打一悪投に岡本生還走者三二壘による。眞野の四球に満壘芝田三振後森田左越本壘打を夏飛ばし三者相ついで生還松本捕飛加藤投捕に退く。裏 奥村三振後伊藤四球次の藤村三捕野選に兩者生きたが筒

第六回表 東山奥野四球に出で眞野のバンドに送られ芝田の二匍に三進し森田ラストボールを左越三壘打し奥野生還自らも捕逸に生還す松本捕前匍。裏 筒川三振青山投飛古澤三振。(東山一彦中零)

第七回表 加藤第一球を左中間に三壘打し今井投匍後岡本の左前安打に生還西村三振後岡本二盗したが奥野又三振 裏 西堀又左中間に絶好の三壘打を飛ばしたが辻藤本共に三振し奥村の投飛に空しく退く。(東山一彦中零)

第八回表 真野内野安打に出で芝田の三飛後捕逸に三進森田三振松本三匍に出たが加藤の三振に止む 裏 伊藤藤村三振後筒川遊匍に出で青山三振して凡退。

(東山零彦中零)

第九回表 今井投直失に出で岡本の左越三壘打に生還西村奥野三振後眞野四球を利し二盗芝田四球満壘となり森田の三匍野逸に岡本生還尚満壘の折柄松本ラストボールを本壘打し四者續いて生還加藤三振し打者一巡す 裏 古澤三振西堀投飛後辻安打したが藤本の二直に万事休し涙をのんで退場す。

	東山	本校	東山	本校	東山	本校	東山	本校
	40	38	40	38	40	38	40	38
	打數							
○九月十三日 本校庭にて愛知商業と戦ふ	11	13	6	1	2	0	4	8
	死	死	残	犠	二	三	壘	失
							策	壘
								打
一	0	0	0	0	0	0	0	0
二	0	0	0	0	0	0	0	0
三	0	0	0	0	0	0	0	0
四	0	0	0	0	0	0	0	0
五	0	0	0	0	0	0	0	0
六	0	0	0	0	0	0	0	0
七	0	0	0	0	0	0	0	0
八	0	0	0	0	0	0	0	0
九	0	0	0	0	0	0	0	0
九月十三日 本校庭にて愛知商業と戦ふ	1	1	1	1	1	1	1	1
	6A							

せんとして殺さる(兩軍零)

第三回表 河田左飛伊藤遊飛淺野四球に出でしが三浦の遊匍に變る。裏 堀江三匍藤村四球を利せしが奥村の三匍に二壘でさゝれ又奥村盜壘を企てゝ殺さる兩軍投手に悩まさる(兩軍零)

第四回表 木村三飛後安田早崎安打して優勢を示したが淺井高木の凡打に終る。裏 三者凡退して意の如くならず(兩軍零)

第五回表 河田三振後伊藤四球に出で淺野三匍に兩者生き三浦のバンドに伊藤生還し三一壘にあり木村三振し次の安田ツウストライキ後三壘打を飛ばし二點を加へたり早崎又安打して安田還したが浅井の遊匍に喰ひ止む 裏 辻三振伊藤三匍に出でしが青山の三飛堀江二匍(岐中四彦中零)

第六回表 高木河田伊藤淺野振はす。裏 藤村一遊間内野安打に出で奥村中右間に絶好の安打を憂飛ばし走者無死にして一二壘によつたが西堀三振淺野投匍藤本三匍してチャレンスを逃がす。

第七回表 三者凡打 裏 辻第二球を三壘打し伊藤を二壘に送りして出でしが奥村の三匍に二壘に刺さる奥村盜壘

彦中	1	4	0	1	3	5	2
數	33	打	打	打	打	打	打
得	安	二	機	三	四	盜	壘
愛	商	37	6	4	2	0	8

○彦根体育俱楽部主催岐滋聯合野球大會記  
大會は例年通り二十一日より開始され我部は晴れの舞臺に雌雄を決せんと之に臨めり。戰蹟左の如し

○第一回戦 不戦一勝 對手は比叡山中學であつたが棄權した爲我第二回戦勝者となる。

○第二回戦 對手は比叡山中學であり昨年の恥を一舉に雪がんご戦端を開く。

九月二十三日 岐中先攻 於本校庭

第一回表 伊藤遊匍淺野四球に出で三浦三振後木村一

匍失に生き淺野生還す安田バツタボックスに立つたが木村盜壘を企て二壘に刺さる。裏 奥村投匍西堀三振後淺野二遊間安打に出でしが藤本の遊匍に終る(岐中一彦中零)

第二回表 安田捕失に出で早崎捕飛し淺井遊匍に安田二壘に刺され高木三振す。裏 堀江三匍藤村四球を利して出でしが奥村の三匍に二壘に刺さる奥村盜壘

れり堀江投捕して走者二三塁による。藤村四球を得たが伊藤捕手と三壘手の爲に殺され奥村の遊捕に止む。我軍挽回の意氣すごし（岐中零彦中一）

第八回表 西堀遊捕淺野三振後藤本三壘打し捕逸に生還辻四球を利して出でしが盜壘を企て二壘に刺さる

（岐中零彦中一）

第九回 兩軍無爲に終る。嗚呼こゝに今年の大會も五對二にて敗れたり。殘念至極。熱心に應援して下さつた六百の健兒諸君許して呉れ給へ。

○岐阜市主催四縣選抜野球大會

岐滋大會に三度岐中に敗れた我軍は岐阜市主催選抜野球大會出場に決す。此度こそ積年の恨岐中を倒さで置く可きか。連日猛練習を重ね十七日岐阜に向つたメンバー左の如し

本	藤	伊	藤	辻	江	野	山	村	堀	川
藤	伊	藤	辻	江	野	山	村	堀	川	川
投	捕	一	二	三	遊	左	中	右	補	前筒
5	9	6	3	8	4	2	1	7		

○第一回戦山田中学對本校 場所 岐阜公園グランド 開始十八日午前八時半 山田先攻

第八回 兩軍無爲  
第九回 敵は最後の攻撃にうつりしも我好守に止む時に十一時

我が軍は後半に於て大いに餘裕を示し十一A對零にて大勝す、藤本投手のデッドボールは我軍の大打撃なり

○第二回戦本校對岐阜中學

十八日午後二時より岐阜公園に於て戦つた我が軍にとつては朝山田中學と戦ひ非常に悪いコンディションに有つたのであるが全軍決死の奮闘を以て岐中先攻に戦は開始された

第一回 敵の第一打者伊藤右翼越の二壘打に出で續く打者の犠打と捕失に一點を先取す彦中奥村安打に出で續く青山の犠打に二壘に進み辻の安打に奥村生還し戦は兩軍の打撃戦に始る

第二回 兩軍無爲

第三回 岐中淺野遊失に出で三浦の左越三壘打にて生還續いて三浦生還辻中二點を擧げ裕々我を壓せんとする、我軍奥村安打に出で一死後辻の安打に二進し時に藤本絶好の三壘打を中左間に放ち二者生還續く浅

野藤本の二壘打に二點を得敵投手を完全にノックアウトす。敵投手を三浦にかふ 彦中四岐中三

第四回 我軍奥村四球に出で二三壘を盗みし後大膽なるホームスチールを敢行し見事成功す彦中一岐中零第五回 兩軍無爲

第六回 我藤本投手朝の手首のデッドボールにて此回に及び痛さに忍びず淺野代る。時に無死満壘の時なりしも淺野のドロップ見事巧を奏し敵に一點をあたへしのみ 我軍無爲

第七回 兩軍無爲

第八回 我軍奥村遊失に生き二盗後辻の犠打に三進し藤本のバンドに奥村生還此れにより我軍の勝利確實となる

此のゲームは最後の一球まで息詰る様な大接戦で何時の間に勝つたのかわからぬ位であつた

此の日の淺野の守備奥村の攻撃は當日の白眉であつた

○優勝戦 彦中對熱田中學

吾軍は湖國の健兒の爲に孤軍奮闘し優勝戦迄漕付けた岐中に對する復讐は成つた此の時に當り優勝せずして夏の大會以來吾校友諸君の期待を裏切つた罪をつぐなふ時が有らうかせめて此の大會に優勝して少しでも六百の諸君と合はす面をあらしむべし僕等はベストを盡して戰つた。

十九日午後二時より開始さる

熱田先攻

第一回 敵は二番の二壘打と四番の安打に一點を先取す

我軍 奥村安打に出でしも後續かず 我軍零熱田一

第二回 敵軍三者凡退

我軍 伊藤堀江前川安打連發し一點を得奥村のバンド内野安打となり二者生還青山四球に出で一死後藤本の三振したるを捕手落し奥村青山生還一舉五點を得、我軍五熱田零

第三回 敵軍九番打者四球に出で二番の安打に生還我

が失に又二番打者生還四番を三振にほふる

我軍 伊藤の安打有りしのみ、我軍零熱田二

第四回 兩軍無爲

第五回 兩軍無爲

第六回 敵軍三者凡退

我軍 青山遊失に出で辻の二壘打に生還後援續かす

第七回 敵軍三者凡退

我軍 淺野堀江前川の安打に一點を得

我軍 一熱田零

第八回 敵軍三者凡退

我軍 二死後辻の痛快なる三壘打有りしも後援なし

兩軍零

第九回 敵軍第四番打者太田三壘打に出で一點を得し

も吾が好守に遂にゲームを終る

○十月二十四日 午後一時より八幡商業と我校新チームと本校々庭に戰ふ。戰績左の如し

中川江村筒堀奥浅辻(伊)西藤青山前

彦左遊三中投遊捕二捕一右左一右

三四回兩軍三者凡退

五回 彦中藤本二死後左翼越大三壘打をはなちしも辻の左飛に入らす

熱田三者凡退

六回 彦中無爲

七回 热田第一打者安打して出で投手の暴投と野失に一點を擧ぐ 彦零熱1

兩軍無爲

八回 彦中藤村安打し伊藤の死球堀江の左前安打に藤村生還西堀のバンドは伊藤を還し奥村二失に生き堀江生還せしも奥村二盜して殺さる

熱田此の回に四球と二本の安打に二點を入れる

彦3熱2

九回 彦中辻一打するや左中間の三壘打となり藤本の安打に生還す

熱田無爲 彦1熱零

八對三にて吾軍の勝利となる弟軍の猛打敵なし

○二回戦は同日午後二時半より京都一商と戰ふ

彦中先攻

一回 彦中奥村劈頭右翼ラインにそうち三壘打をはなち

熱田無爲

二回 彦根西堀一死後安打に出で奥村の右翼二壘打に西堀三壘に居る時青山のバンドを捕手逸し西堀奥村生還

熱田無爲

彦2熱零

青山の犠打に生還續く辻藤本の安打淺野の四球  
に一死満壘となりし時藤村のバンド内野安打と  
なり辻藤本生還せしも後援續かす  
一商二番打者三壘打ありしも點をなさず

かくて我軍は九對二にて勝てり次は準優勝戦にて仇  
敵東山と戰ふ事に決す  
○準優勝戦

彦3 商零

二回 兩軍無爲  
三回 彦中藤本一死後中左間に大本壘打を憂飛ばせり  
一商三者凡退

彦1 商零

四回 兩軍無爲  
五回 彦中三者凡退

一商我が失と二壘打に二點を入れる

彦零商2

六回 兩軍無爲  
七回 彦根西堀安打に出で敵失に一點を入れる

一商無爲

八回 彦中愈々總攻撃に入る淺野安打に出で藤村の犠  
打に二進し前川の二壘打に淺野生還續く堀江の  
二壘打に前川生還後援なし

一商無爲

九回 彦根藤本の三壘打と敵失に二點を入れる

六回 兩軍無爲

一商無爲

第七回 今井二壘打をカツ飛ばししのみ 裏 凡打  
(兩軍零)

第八回 森田の安打ありしが三者三振す 裏 藤村左  
飛し奥村西堀無爲 (兩軍零)

第九回 加藤今井共に出て加藤二壘に刺されし後西村  
三壘打をカツ飛ばし岡本二壘打して先づ二點を加へ  
眞野芝田又有爲にして合計四點となりしが森田三振  
して止む。裏 二者四球を得しが振はず 遺憾ながら  
五對零にて東山に勝を譲る。あゝ殘念なる哉

當日名投手森田は辻に三度の四球を出しゝは、げに  
奇計にあらずや。又この日の我投手藤本の出來ばはは  
彼入部以來見る事の出來なかつた腕の奥技を表はした

山 野 田 本 藤 井 村 野 本  
眞 芝 森 松 加 今 西 奥 岡

東 遊 三 投 捕 中 右 一二 左

中 村 堀 野 本 藤 山 江 村  
奥 西 浅 辻 藤 伊 青 堀 藤

彦 中 右 遊 三 投 捕 左 三 一

○滋賀縣人會主催縣下中等學校野球大會出場

第四回 「彦中」藤本三振淺野藤村共に出て西堀中越三

第三回 「彦中」伊藤と奥村等安打したが點をなさず  
「滋師」村木鹽見の二安打ありて一點を得。(彦中零滋  
師一)

壘打を飛ばし彦中側のわめき一方ならず堀江三塁に

西堀生還伊藤三振「滋師」凡退（彦中二滋師零）

第五回 「彦中」奥村安打して進んだが青山の遊飼に封

殺された主將辻は第一球を中左間に痛打。二塁打と

なり青山生還次は藤本の中飛失に辻長驅して本塁

に入る「滋師」駒井三振後福井二塁手失に出で遂

に一點を得る（彦中一滋師一）

第六回 「彦中」又西堀奥村の二安打に一點を入る

「滋師」中川投飛澤邊遊飼に出成宮又遊撃を強襲して走者一二塁に有り。橋本の一軸に二者進み駒井三塁

したが澤邊生還（彦中一滋師一）

第七回 「彦中」辻中前にすこき安打を放つたが無爲

「滋師」凡打し降る（兩軍零）

滋師	3	0	7	1	4	
滋數	28	3	9	2	5	
打	1	2	5	0	4	
安	3	4	5	0	4	
犠	1	1	3	1	3	
三	1	1	3	1	3	
四	1	1	3	1	3	
五	1	1	3	1	3	
六	1	1	3	1	3	
七	1	1	3	1	3	
						15
						合計

中	木見野川邊宮本井井
奥山	村鹽益中澤成橋駒福
辻	藤浅藤西堀伊

中	奥山	辻	本	野
左二遊	投	二遊	投	右三捕
中左二遊	投	二遊	投	
中	左	二遊	投	
左二遊	投	二遊	投	

### ○優勝戦

優勝戦は膳中と同球場に戦ふ

第一回 先づ膳中攻撃し小幡吉井共に凡打後西田善安打したが奥村悦遊飛「彦」奥村劈頭より二塁打を蔓

飛ばし青山の二塁失に進塁。辻の三塁失に生還し藤本二塁後浅野の安打に青山生還（膳零彦二）

第二回 兩軍無爲

第三回 「膳」橋本二飛二者三振「彦」青山、藤村の二

中前安打あつて一點を得（膳零彦一）

第四回 「膳」西田善左越本塁打を蔓飛ばし膳中軍一層の勢を増したが後者凡退「彦」堀江投飼後伊藤の右前奥村の左前二安打に出でゝグッドチャスなりしが青山の一飛失に重殺を喫す（膳一彦零）

第五回 「膳」橋本安打し小幡バンドに成功し後者微打得

彦中二〇一〇〇〇五八A

点 膳中 〇〇〇一〇〇〇二〇 三

点 得 彦中 二〇一〇〇〇五八A

○十二月八日 皇孫内親王殿下御降誕祝賀として遙拜式後例會を開けり各年級からナインを出して午前九時開會

第一回 第四學年 對 第三學年（勝）

第二回 第二學年（勝）對 第一學年

第三回 第五學年（勝）對 第三學年

第四回 第五學年（勝）對 第四學年

第五回 第五學年優勝し午後四時半閉會。

○本年度試合數勝敗率

勝 本校 一一一一 八日市

同 同 同 一〇一七 滋賀師

同 同 同 九一八 膳中

同 同 同 一一一朝日クラブ

同 同 同 五零 彦根高商

同 同 同 九二京二中

同 同 同 三一五平安中學

岐中

無勝負

一一五 愛知一中  
一七四 敦賀商業

一七〇 水口中學  
四二二 立命館

四一〇 京師  
二一四 東山中學

一一六 愛知商業  
九一〇 比叡山中學

二一五 岐中  
一一〇 山田中學

一一〇 岐中  
六一四 神戸高等商業學校主催

七一四 第十二回全國中等學校庭球大會參加記

一二一四 八商  
八一三 熱田中學

九一二 京一商  
〇一五 東山

一四一三 滋賀師  
八一三 賧中

二十六戰  
十九勝 六負 一無勝負  
以上（赤田記）

昨年度は我部の重鎮として活躍し四名の五年級選手を出せしも直ちに本年度新チームを組織し伊吹の残雪鹿の子如くなる、四月上旬、愛校の血に染みたる十餘名の選手は、千古の奇を傳ふる琵琶の湖に護られて意氣揚々として磨き得し刃を振りかざし、金龜ヶ丘に猛練習を開始せり。

神戸高等商業學校主催

第十二回全國中等學校庭球大會參加記

六月八日、我部は森、知田組を此の大會に参加せしむ。第一回戦は京阪の勇八尾中學なりしも敵は當日棄權せしめ第二回戦に於て和歌山商業軍と對戦せり、敵を一舉に敗らんの勢もて戦ひし我軍の意氣空しく遂に六二二のスコアを以て惜敗せり熱誠なる諸君の御後援を深く感謝す。

七月十九日京都遠征の記

京一中對本校戦は吾軍利あらず退く、此の汚名を雪

なく六二一のスコアにて一敗地に塗れたり、本大會に於て愛知一中優勝せり。

第四高等學校主催全國大會參加之記

時日、八月一日。  
場所、四高第二コート。

第一回戦は北陸の勇者金澤二中と戦ふ。

本校三番組對金澤二中は六二五の接戦にて惜敗す。仇を打たんとせし本校副將戦も利あらず六二五の接戦にて敗れ名残を惜しみて退く。諸君の御寛容を乞ふ。

本校對彦根商業戦（對校試合）

時は九月中旬第二學期の初回試合に彦商と戦へり。  
場所彦根商業コート。

本校副將對彦商戦ふまでもなく敵をして敗慘の將たらしめたり（二〇〇にて勝つ）。

京一商對本校試合の記

中秋の候、我部は關西の勇京一商と戦ふべく意氣揚々として平和に誇る西京の地に至る、然れども敵一商は全國中等學校準硬球界に稱する豪者なれば我の

がんものと午後二時京雄、二中に向へり此の戦は意氣込める我軍は最初より敵と肉迫し、本校三將組對敵二中三將戦は、六對二のスコアを以て勝を得たり。續く副將對副將戦は奮戦の效なく六二四、を以て敗る愈々勝敗の定まる大將組の一騎打は拍手援聲の中に火花を散らせり、最初より敵を壓迫して一步も出でしめずゲームは次第に進行して（此の時のスコア一三二〇なり）腕益々渾ゆ、此の時敵は我の失策に反して確實を以てせしかば遂に挽回せられて四二四の接戦に至りしも效なく六二四にて涙を呑んで退く。

大垣商業同窓會主催東海大會參加之記

時丁度七月二十五日、我が大將、副將組は中川部長に引率せられて養老庭球コートに向へり。

戦績左の如し。

第一回戦本校大將組は京一中と當りしも敵棄権せり。本校副將は一回戦不戦一勝なり。

第二回戦本校大將組對和歌山縣新宮商業大將組の戦は武運拙く六二四にて敗れたり。

本校副將對岐師副將戦は我軍利あり六二四にて勝つ。

第三回戦本校副將對愛知一中副將戦は奮戦力鬪の甲斐